

2019年2月17日 週報巻頭言

## 「善いサマリア人」のたとえ話

この聖書箇所ほど分かりやすい話しはありません。こどもへ話しても解答は明解でしょう。しかし、われわれの日常生活においてははどうでしょうか？

気が付いていても、実行するには勇気がいることがあります。

イエスの話しには、背景があります。「ユダヤ人とサマリア人」の関係です。今でも地上では「民族の戦い」が止むことはありませんが、サマリア人は悲しい歴史がありました。紀元前922年にイスラエルは北と南に分かれました。ここに北と南の対立する悲しい歴史が始まったのでした。その後の722年に北イスラエル(主都サマリア)はアッシリア帝国によって滅ぼされました。「北王国サマリアが滅びても、エルサレムでは涙を流した者は多くなかった」と言われるような関係になってしまっていたのです。

南王国ユダはアッシリア文化に染まって行く北王国をますます嫌うのでした。「サマリア人の与えるパンの一切れはぶたの肉より不潔である」とまで言われたのです。

このような歴史背景から聖書を読むと、イエスのたとえが何と一層意味深く強く響いて来ることでしょう。 (山下誠也)